

『つつきはっけん講座とウォーク』 第7回（累計13回）

10:00～11:30 歴史講座

『日本遺産・府景観資産：飯岡の魅力』

丘陵地、古墳群、豊田武兵衛、七井戸、
七渡し、三宅安兵衛の碑

13:00～15:30 ウォーキング

知られざる迷路コースを探索



飯岡って、どんなところ

- 小高い丘陵地(標高65m、面積1.7平方km)、迷路
丘の上:集落、斜面:茶畑、平地:水田、七井戸十塚
- 馬咋岡(うまいおか) → まくいおか → くいおか(咋岡神社)
→ いおか → いのおか => 飯岡
- 柿本人麻呂:万葉集で咋山と詠む
- 弥生時代の竪穴住居跡、集落
古墳時代前期の飯岡古墳群、飯岡横穴
- 水の便が悪く、『七つの井戸』が山の中腹にあった
- 西方寺の再興:袋中上人
- 丘陵地開拓の祖、かんきつ類の栽培:小山伊織
- 万年槌を私財をなげうって作ろうとした:豊田武兵衛
- 共同製茶工場:85年前 手もみで製茶
- 2015. 4 日本遺産認定:『日本茶800年の歴史散歩』
- 2015. 6 京都府景観資産登録:『玉露の郷』



飯岡詳細図

玉池



- 史跡
- 七井戸
- 七井戸への道
- 散策路
- 道路

飯岡の渡しの碑
豊田武兵衛の碑

豊田武兵衛 ～用水路開発に人生をかける～

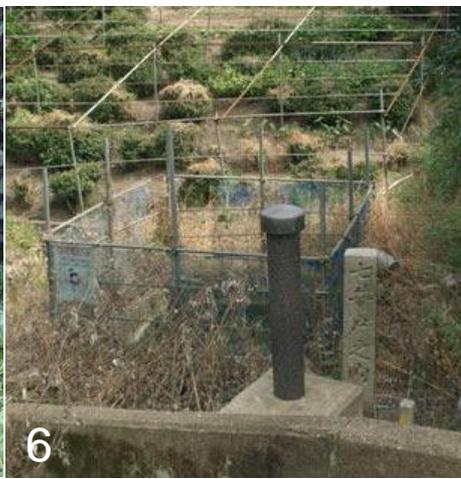
- ・1718(享保3)年:山城国綴喜郡飯岡村に生まれる
- ・15歳で、南都松村兵庫で文武の道を研鑽、淀藩主の師範として招かれるが仕官せず
- ・飯岡は、丘陵外:川水が運んだ土砂・粘土・礫の沖積層、
丘陵地:200～50万前の大阪層群の洪積層
丘陵東南部:6～2億年前の古生層の岩盤は、地中奥深くでマグマから固まった
花崗岩が押し上げて『千貫岩』と呼ばれる巨石や岩盤地帯を形成
- ・当時(8代吉宗)は淀藩領、稲葉丹後守、666石、豊田家は代々の庄屋
- ・丘陵の東1端が太古からの大岩石の千貫岬が木津川の流れをせき止め、
洪水や旱魃災害の原因を解決することが村人の願い
- ・武兵衛は、1年かけて、調査研究・思索し、1763年設計図を完成
江津村～山本村～(千貫岬:トンネルを掘り、水を通す)～飯岡村に引水
- ・1764年:村民集会で決行 淀藩庁、伏見奉行所の許可
- ・最初の試練:山本村の悪水路対策は、他の村にも悪影響が発生し関係村での調整
- ・1770年:ようやく工事着手。工事は思うように進まず、意気消沈で村人が去る。
- ・武兵衛は、自費で人夫を雇い、1772年、トンネルが完成し、『万年樋』と名づけられた。
- ・あとは、平坦部の僅かというところで、私財は無一文となり工事は中止。村人から冷笑。
- ・1775年:万策尽き、無念のうちに、八幡傳法院の寺男になり、時節到来の日を待つ。
- ・1776年:淀藩は、工事不成就で闕所追放。
- ・1778年:大旱魃。並々と流れる木津川を見て、『万年樋に水を通せ』運動がおこり、
新庄屋の出島冶左衛門の元に用水路が完成。山本・江津も含めて、旱魃から逃れる。
- ・村人は謝り淀藩から罪は解かれるが、飯岡には帰らず、1794年:死去
- ・1832年:村民が碑を建てる 1928年従5位の追贈、三宅安兵衛建碑



飯岡の七井戸

- ・『綴喜郡誌』(1503)
(櫻井王の古墳あり、井戸水使用、3人の水守管理)
- ・飲用・消火用・生活用水の共同井戸、『井戸組合管理』

	場所	特徴	三宅安兵衛碑 建立時期、高さ	その他
1	一番西側道路の飯岡に上る左麓	直径1m、深さ4m 木の蓋	「七井戸之内」 昭和4年3月、1.5m	昭和15年9月 『井戸組合』
2	蓮華寺跡案内板の側(奈良時代)	道路脇茶畑の丸い井戸、蓋なし	「七井戸之内」 昭和4年3月	地下水が尽きる ことなく井戸水に
3	田辺病院東方の坂中腹	直径1.5mが埋まる 内部に土砂、木蓋	「七井戸之内」	碑の前に花立て 二つ
4	昨岡神社の北河瀬文明宅前	木の屋根あり、数段の石段、石敷き	「櫻井王令穿七井戸」 昭和3年11月、3m	『飯岡製麺』は七井戸を使用
5	阿弥陀寺真下竹藪	上部30cm程見え埋まる	「七井戸之内」	草が蔽い、道なしで行けず
6	中腹の北斜面	直径3m四角形 深さ2mに水面	「七井戸之内」 1.5m	頑丈な柵
7	北の玉池の上	トタンの屋根	「七井戸之内」 昭和4年11月 1.5m	周囲網柵、香西館 魚供養之霊



三宅安兵衛遺志碑

- 大正末年から昭和初年(1921~1930年)に、京都市中京区在住の西陣帯地卸商、三宅清治郎が、京都府南部を中心に建設した石碑。これは、父安兵衛の遺命にもとづいて行われ、石碑の裏面に「京都三宅安兵衛依遺志建之」を記載。
- 三宅安兵衛(1842~1920)は現在の福井県小浜市に生まれ、のち中京区六角通高倉西入ルにて博多織を販売。晩年の大正8年(1919)元旦に、1万円(当時、現在の5千万円)を清治郎に託し遺言。

『此の金を予が死後、京都の為
公利公益の事に使用せよ。

是れ予が幼より故国を出て京都に
来り今日迄恩沢を蒙りし御礼の意也
但し其用途の方法時期等は汝に
一任す。要は克く予が意を体せよ。
疎かに用ふるなかれ』。



三宅安兵衛遺志碑

- 清治郎は、その使途について考えた末、社寺や旧跡に関する案内碑や道標の建設を計画。
父は晩年よく旅行をし、案内表示が少ないことを残念に思っていた。
- 大正10年(1921)12月27日から建設を開始。
最初の碑は、東山の円山公園の道しるべを建設(現存)。
その後、昭和5年(1930)にいたる10年間に、2万円(当時)を投資し、およそ400基を建設。
父が託したお金と同額の費用を自己負担。合計約1億円投入。
- ただ父の遺命にのみ従ったのではなく、自らも多くの負担をしたにもかかわらず碑の裏面には父の名前しか書かれていない。



京田辺市に建てられた石碑

41基

- 89松井横穴の碑 其の一 90同 其の二
76開山一休禪師酬恩庵 152開山大応国師妙勝寺址の碑
115佐川田(喜の脱字)六昌俊の墓の碑「左」 133佐川田喜六昌俊墓の碑「左
一丁」 佐川田喜六昌俊草創 134黙々寺旧址の碑 302薪能金春の芝の碑
216~222桜井令穿七井戸の碑 其の一 同 其の二 同 其の三
同 其の四 同 其の五 同 其の六 同 其の七
□上殖葉古墳 □椀子王古墳 □櫻井古墳 233朱大王古墳の碑
234穴山梅雪翁墓の碑 239用水開鑿豊田翁旧蹟の碑 □小山伊織翁旧蹟の碑
198神魂丘舊墳 199西方寺袋中上人墓の碑
301十一面観世音尊像 法泉寺の碑
□山本驛旧跡 297十一面観世音尊像 寿寶寺の碑(不明) 320其の二
159仁徳天皇皇后磐之姫古蹟の碑(不明) 177仁徳天皇城旧蹟の碑
157継体天皇皇居旧蹟の碑
139日本最初外国蚕飼育旧蹟の碑 174不動尊像不動寺
140近衛基通公墓の碑 175近衛基通公遺蹟の碑(不明)
236国宝 観世音尊像 大御堂観音寺の碑
158蘭学の泰斗藤林普山先生の碑 176水取司遺蹟の碑
160石舟神社の碑 142天王山城蹟阿戸 178朱智神社の碑

渡し・船着場

1	山本の渡し	和銅四年「山本驛」～宇治田原～瀬田
2	飯岡の渡し	飯岡の入口に千貫岩、玉水側の榎
3	草内の渡し	河内～奈島・宇治田原、草内～16の対岸
4	藤木の浜	山城大橋下流300m付近
5	富野の渡し	河原～長池・宇治田原
6	田辺船着場	
7	水主の渡し	手原川の下流～右岸水主







昭和57年選定田辺町三十景

1	松井の竹林と天神社	16	草内新池の菱採り
2	城山と月読社	17	飯岡と咋岡神社
3	大住の隼人舞	18	飯岡山と古墳群
4	大住の桃林	19	木津川
5	姫塚とチコンジ山古墳群	20	玉露園の茶摘み
6	澤井家民家と黒門	21	寿宝寺と鶴沢の池
7	竜王谷と虚空蔵さん	22	佐牙社の森と松並木
8	薪の里と一休寺	23	おんごろどんと白山神社
9	天神の森と棚倉孫社	24	天王無二荘の牡丹
10	田辺のずいきみこし	25	天神社と筒城宮跡
11	甘南備山	26	普賢寺谷と大御堂
12	天井川とみつまんぼ	27	生駒の山なみと朱智の森
13	興戸大池と酒屋神社	28	天王の段々田畑
14	馬坂川と夕涼みの集い	29	打田の須賀神社
15	法泉寺と十三重石塔	30	高船の集落

H26～27年 『つつきはっけん』講座とウォーク 実施

	実施日	テーマ	備考
1	H26. 4. 11	京田辺市概要 観光資源全般	
2	6. 13	家康伊賀越え つつきのみち	
3	8. 8	継体天皇と筒城宮	
4	10. 9	いにしへの宝庫 南部地域	
5	11.14	同志社大学キャンパス探訪	ウォーク
6	12.12	かぐや姫の里 京田辺	
7	H27. 4. 7	京田辺市の魅了と謎	
8	6.13	本能寺の変 真実と謎、家康梅雪の逃走	
9	7.10	古代～中世 きょうたなべの遺跡	外部講師
10	8. 7	いにしえ文化伝統の薫る松井・大住地域	
11	10. 9	南山城三十三所めぐり 京田辺の観音様を訪れる	
12	11.13	文化伝統の松井・大住を散策	ウォーク
13	12.12	京都府景観資産 飯岡地区	

お知らせ

平成28年2月12日(金) 10～12時 社会福祉センター 2F 研修室2
『つつきはっけんを語ろう会』 質疑、まとめ、これからのこと… 無料

平成28年2月11日(祝) 7時45分～9時 『竹送り』 観音寺～竹堀り～ふれあいの駅
 京田辺のことで知りたいことやガイド希望の方は、63-0599、メールで 伊藤まで